

テストWG 始動

秋山 浩一
富士ゼロックス株式会社
Kouichi.Akiyama@fujixerox.co.jp

要旨

テスト WG では、昨年、初回ということで、ニュースになったソフトウェア障害事例を分析し問題がどこにあるのかの分析を試みた。その結果、ニュースにはその性格上、障害原因の詳細がほとんど掲載されていないため大まかな分析しかできなかつた。ただし、ソフトウェア障害の分析方法については大いに議論し、なぜなぜ分析や、そのアンチパターンについての有益な情報を現場に持ち帰ることができたと考えている。

第 2 回目の本年度は、ソフトウェアテスト現場における具体的な問題を取り上げて今後の SEA におけるソフトウェアテストに関する活動の課題認識を共有するとともに、すでに解がある問題については具体的な解決方法について情報交換できるとよいと考えている。

1. 自己紹介

1962 年 9 月 24 日生まれで、コンピュータとの出会いは、高校時代に友人の持っていたシャープの MZ-80C を触ったのが始まり。

その後、大学で PET-2001、Apple II、PC8001 に出会い、自分も BASIC Master Level III を買って BASIC の ROM を逆アセンブルして読んだり、大学の ACOS で先輩のカードを借りて待ち行列の計算などを行っていた。

大学 4 年の頃は、物理実験装置を動かすためのソフトウェアを自作ボードだったのでアセンブラも無かったので 16 進で書いていた。以上のおお、ソフトウェア工学とは無縁な生活だった。

就職後は、Smalltalk-80 や Interlisp-D の担当になったこともあり、オブジェクト指向との出会いは早い方かもしれない。

と、この調子だと 2009 年まで行き着けないので話は飛んで、1997 年からテスト技法・ツール開発が仕事となり、HAYST 法を開発する。その後、TEF、JaSST、JSTQB、

SQiP、SEA、IPA/SEC などの活動に携わることになって、現在に至っている。

2. SS2009 での活動予定

2.1. 現場の問題点の整理

できれば、SS2009 までにテスト WG の参加者がかかえているソフトウェアテストに関する職場の問題点を各自のポジショニングペーパーなどから集め、それに対するソフトウェア工学での対策リスト的なものを作成していきたいと考えている。役立つものもあれば役立つものもあるだろうから、当日は、「とはいっても」というぶっちゃけた話ができればと考えている。

2.2. 課題の抽出と方向性の確認

共通し、かつ、重い課題を抽出し、それでは今後どうしたら良いのかについて議論をしたいと考えている。できれば、SEA という組織で取り組んでいくことが見えるとよいと思っている (XX の課題は YY 企業 (あるいは先生) が解決していそうだから SEA のセミナーに呼んで話をきってみようとか……)。

2.3. 私の職場におけるソフトウェアテストの問題点

重要品質問題をゼロにするテスト方法の立案が一番の課題である。また、組込み系の評価から、ソリューション系の評価へどう移っていくか、大きな岐路に差し掛かっておりエンタープライズ系のテスト方法を勉強しているところである。